

令和元年度第2回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

- 1 会議名 令和元年度第2回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 開催日時 令和元年8月6日(火) 午前10時2分から正午まで
- 3 開催場所 一関市役所 2階 議員全員協議会室
- 4 出席者

(1) 委員

金成風太、熊谷志江、佐藤佳織、佐藤一也、鈴木明宏、滝上亜寿香、千葉順子、中机純子、野村勉、橋本真由美、船山賢治、堀籠義裕、町田彩花

※ 欠席委員:金沢修治、中芝浩美、藤野秀一、三浦孝浩

(2) 事務局

石川隆明市長公室長、佐藤正幸市長公室次長兼政策企画課長、阿部繁樹政策企画課長補佐兼未来戦略係長、小野寺知之政策企画課主査

5 議題

- (1) 一関市人口ビジョン及び一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
- (2) 第2期総合戦略の策定方針について
- (3) 総合戦略策定に係る市民等アンケートについて

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 0人

8 会議の内容

【委嘱状交付】

出席委員13人に市長から委嘱状を交付した。

【市長挨拶】

委員の皆様のお知恵を拝借し、一関市が住みやすく、若い方々に定住いただけるような環境づくりに努めて参りたいので、よろしく願いしたい。

市の人口ビジョン及び総合戦略は平成27年に策定し、人口減少を緩やかにする対策を講じてきた。安心して子育てができるような環境をつくりたいという思いから、子育て世代への支援を重点に施策を打ち出し、子どもの成長過程に合わせた子育て支援の点を線になるようにつなげ、さらに面になるような取組を進めてきたところである。

県内ではトップに位置するような取組となったが、その効果が出るには時間がかかる。

これからの地域課題は、1つの市町村だけではなく、隣接する自治体と連携しなければ解決できない。当市では、隣接する平泉町と定住自立圏の協定を締結し、様々な取組を一緒に進めている。また、通勤・通学、医療などの日常生活圏、共通の文化を持った地域を考えたときに、宮城県の栗原市、登米市とのつながりを無視することはできない。現在、これらの4市町の頭文字を取って「栗登一平（くりといっぺい）」と名付けた連携を進めている。県境を重視する施策は今後の大きな課題と認識しており、県境をまたいだ道路整備は特にも遅れていることから、岩手県へ要望を行ったところである。

今後、働く世代が減少する中で、「あれもこれも」ではなく限られた財源を効果的に使うには、「あれかこれか」の選択が必要です。

委員の皆様には、忌憚ない意見をいただき、それを受け止め新しい施策につなげていきたいので、よろしくお願ひしたい。

#### 【座長、副座長選出】

一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第5の規定により、座長に堀籠義裕委員、副座長に橋本真由美委員を選出した。

#### 【協議】

(1) 一関市人口ビジョン及び一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

資料1及び資料2により、一関市人口ビジョン及び一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、事務局から説明を行った。

委員からの意見、質疑はなし。

(2) 第2期総合戦略の策定方針について

資料3及び資料4により、一関市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定及び一関市人口ビジョン改訂方針について、事務局から説明を行った。

委員からの意見、質疑はなし。

(3) 総合戦略策定に係る市民等アンケートについて

資料5及び資料6により、人口ビジョン改訂及び総合戦略策定アンケート調査実施要領(案)と現行の人口ビジョン及び総合戦略策定時のアンケート調査について、事務局から説明を行った。

## ■質疑応答

委員 アンケート調査は、何を知るために実施するものなのか。前回調査時点との現在との違いを見るためのものか。

事務局 アンケートは、今後の人口ビジョンや総合戦略の施策を検討するために行うものである。

人口ビジョンにおいて人口推計をする際に、出生率をいくらで見るかということが必要になってくるが、このアンケート調査で希望する子どもの数を市民に聞き、出生率を設定している。また、出産の希望を叶えるには何をすべきかを検討するために、前回の調査では、子どもを産むことの障害になっていることは何かといったことを尋ねている。

転入転出においては、その理由が何であるかを尋ねている。前回のアンケートで一番多かった回答は仕事であったが、その理由は転勤なのか、そのほかの理由なのかということを探ねることで、重点的に取り組むべきものが何か見えてくると考えている。

一方、前回の調査時との違いを見たいところもあるので、前回の調査を基本として加除することを考えている。

また、委員によるアンケート内容等に係る討議を行い、次のとおり意見をいただいた。

### ■アンケート内容について

- 施策を実行した結果、どのように変化したのかというところを見るためには、アンケート内容を変えるべきではないと思う。
- 質問項目が多すぎるので、回答することをあきらめてしまうこともあるので、答えやすいように厳選することも必要だと思う。
- 県内他市と一関市を比較する設問があってもよいと思う。
- 質問を追加するのであれば、市は市民からどのような意見を聞きたいのか、どのような施策を進めたいのかを聞けばよいと思う。
- 前回のアンケート調査で、結婚については資金が必要であるとか、育児についても経済的なことを懸念しているなど問題が浮き彫りになったところもあると思うので、その問題の背景をつかむための追加質問をするとよいと思う。
- 理想とする子どもの数となっていない方に対して、その理由を聞くなど深掘り

できるような質問を追加してもよいと思う。

- 自由記述欄を新たに設けて、忌憚のない意見を記入してもらったらいいのではないか。

■アンケートの調査・集計方法について

- 調査票を郵送するだけでなく、質問の趣旨に応じてもらえるように直接ヒアリングするのも一つの方法だと思う。
- 学生が卒業して就職する際に転出することが多いので、学生にどのような企業に就職したいかを聞くアンケートが必要と考える。
- アンケートの実施要領では、結婚・出産・子育ての調査の対象年齢を39歳以下としているが、出産の高齢化により40代で子育てをしていることもあるので、年齢に幅を持たせたほうがよいと思う。
- 前回の調査では、回答者は女性の割合が多いが、男性の声を聞くために回収率を上げる工夫が必要と思う。
- 前回のアンケート調査の集計方法は、単純集計だけなので、年収などの属性による違いを見るクロス集計を行うことが必要だと思う。

■総合戦略の施策について

- 最近企業が撤退し、一関市のイメージが低下している。アンケートの回答にある全国で行われているような支援策を同じように行っても、衰退していくのではないかと思われるので、総花的にならないように、何かを止めて、どこか1つに軸を置いて展開していく必要があると考える。

■会議の進め方について

- 様々な分野から委員が有識者として参加しているので、人口減少対策のヒントを得られるようなテーマで話し合う時間を、会議の中で設けてもよいのではないか。

9 担当課 市長公室政策企画課